

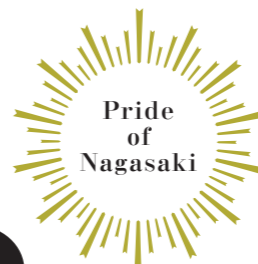


「ただただ継続あるのみです」と、今後の目標を語る山崎さん。

どんな人にも
フィットする
安全な製品を届けたい。



バリアフリー椅子
「かに座PLUSチェア」も
人気の高い製品。
徹底して膝の負担を減らす設計で、
立ち上がりが楽にできる。



シーズは、障害者のためのものづくりを行っている会社だ。基本はオーダーメイドで、車椅子や座位・立位保持装置など、その人に合わせた製品を作っている。代表を務める山崎一雄さんは「それぞれの人が持つ障害の違いはもちろん、生活環境が違えば、合うものは変わってきます。私たちは『どの車椅子が良いですか』とは聞きません。どんな場所に住み、どんな暮らしを送り、誰が車椅子を押すのか。そうした情報を

丁寧に聞き出し、お客様と信頼関係を築きながら、その人に合うものを作る。それが私たちの仕事です」と話す。

日々、オーダーメイドの製品を作る中で、既製品が生まれることもある。その代表が障害児用チャイルドシート「キャロット3」だ。日本でチャイルドシートの着用品が義務化される以前は、障害児用チャイルドシートは海外から輸入するしかなく、体格などの違いから使い勝手が悪かったという。

また子どもの成長に合わせて既製品を改造することも難しかった。障害のある子どもたちが安心して使えるチャイルドシートが少ないという状況を憂い、使いやすく安全性が確保され、サイズ調整ができるものを届けられないか…そう考えた山崎さんたちは、県外のメーカーと共に開発を進め、二年がかりでキャロット3を作った。

キャロット3は、既製品でありながら、二人一人の身体の状態に合わせることでできるのが特徴だ。

例えばヘッドレストは頭の大きさや形に合わせて幅を調整でき、肩や背中部分にはマジックテープを使ってパッドを入れられるなど、カスタマイズが可能。特別な工具を使わずに、子どもを乗せたまま、簡単に調整ができる。成長に合わせて部品も追加できるため、長い年月使うことが可能だ。

キャロット3の最も大きな魅力は、安全性にある。日本、ヨーロッパ、アメリカの安全基準を満たしている国産の障害児用チャイルドシートは他にない。世界最高水準の安全性と利便性を兼ね備えているキャロット3は、世界四十一カ国で愛用され、さらに二〇一九年には、全日空の機内貸出用アシストシートとして、正式に採用された。

山崎さんは年に数回、東京やドイツで開催される福祉用具の展示会へ出かけるという。「そこでさまざまな障害を持つ方やご家族の

お話を伺います。そして、この時に得たものを次の製品へフィードバックする。その経験の積み重ねこそが私たちの財産です」。

キャロット3は現在も改良を重ね、進化を続けている。必要とする人がいる限り、その進化が止まることはない。

世界最高水準の
障害児用チャイルドシート

キャロット3



障害児用チャイルドシート
「キャロット3」。
機能性はもちろん、
高いデザイン性も評価されている。

株式会社シーズ
諫早市目代町705-16
営業時間/8時30分~17時30分
店休日/土曜・日曜・祝日、年末年始
<http://www.seeds-seating.com/>
キャロット3 検索

